

Welcome!

富山大学のみなさん!

NPO SCHOOL '99

学級
通信ロマンと
ソロバン

(財)大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラムNPOコース事務局

書をもって、
まちにでよう。issue 7
1999.6.30

〒 603-8577

京都市北区等持院北町 56-1

立命館大学衣笠研究支援センター気付 修学館238

Tel/FAX 075-465-1979

E-mail ohbora@jca.apc.org

URL http://www.jca.apc.org/ohbora/

前回のおさらい

第6回目のスクーリングは「NPO インターン活動入門I - NPO スクール第1期生に学ぶ - 」と題して、インターン生としての目を持つことの重要性について理解し、一期生とインターンにあたっての課題を相互に相談しあいました。

18:35 ~ 一期生に学ぶ

~ 18:45 登丸あすかさん

~ 18:55 奥弘光くん

~ 19:05 星合葉子さん

19:10 ~ 一期生自己紹介

19:15 ~ グループディスカッション

インターン課題の相互交流

19:50 ~ まとめ (中村)

20:00 ~ 感想文記入・移動

20:30 ~ 思風都でコンパ

「1期生に学ぶ」ということで、3名の1期生の方々に昨年度のインターン経験についてプレゼンテーションをしてもらいました。

まずは、(財)大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)に派遣された登丸あすかさん。登丸さんは、ドーンセンターで「女性情報」とは女性向けの情報ではなく女性に必要な情報であると気づいたとのこと。これは、活動環境の中でこそ活動に必要な知識が身についていくというよい例だと思います。NPO活動は、当然社会問題に取り組んでいるわけで、それゆえに問題についての正確な知識が求められます。そして、実際に活動をしてみて身につく知識は、「活動の実態」を踏まえた一歩進んだものになるはずです。

次は、(財)草津コミュニティ事業団でインターンをした奥弘光くんの発表。奥くんは、インターン活動で行った企業の「社会貢献調査」で、地域を支えるセクターとしての公益信託の存在を知り、現在の就職活動に反映させています。

そして最後に、アジアボランティアセンターでインターンを行った星合葉子さんの発表。星合さんは講座の運営というNGOの国内活動に関わる中で気づいたインターンの心構えについて話をしてくれました。3人の話の最後に中村先生がこうまとめて終わりました。みなさんの自分の活動に「補助線」を引いてみてください、ね。

「かつて小学校や中学校のころ、数学の問題を解くときに一本補助線を引くだけでずいぶん問題がすらすら解けていきましたよね。見えない角度が見えてきましたよね。そういう形で言葉の補助線を引くってことが大変重要なんです。世の中複雑でわかりにくいですから、キーワードをも持つってことは言葉の補助線を一本引っ張るってことなんです。見えないものを見えやすくする、そういう働きを持っているのがテーマでありキーワードです。言葉の補助線をぜひ1つか2つは持って活動してください。」

data sheet	内容：一期生に学ぶ	ゲスト：荒木さん・井出さん・奥くん・窪さん・田中さん・ 登丸さん・中島くん・星合さん・森くん・明井さん(一期生) 島さん(読売新聞)
	話題提供 + グループディスカッション + コンパ	
NO.6 (6/16)	課題：自分自身のインターンのテーマ・キーワードを明確に	

感想文から

今回の感想は、「今更ですが」と前置きした上で「インターンシップに取り組もうと思った理由」と「コーディネーター(ズ)に期待すること」をお聞きしました。どうです、みなさんスラスラと答えられましたか？ きっと他の人の答えも気になるところだと思うので全体的なデータを紹介します。

Q. 今更ですが、あなたがインターンシップに取り組もうと思った理由は何ですか。

< 回答が多かった項目 > (第 1-3 位合計人数 / 第 1 位 / 第 2 位 / 第 3 位)

1 位 ; 自分自身を成長させたかったから(28 人 /10/13/5)	2 位 ; 新しい環境や人に出会いたかったから(22 人 /7/7/8)
3 位 ; 自分のやりたいことを発見したいから(14 人 /7/4/3)	次点 ; 学校外での学びをしたかったから(11 人 /7/4/3)

結果を見ての感想ですが、現時点では、「何かやりたい」「何か学べれば」というような「漠然とした期待感」を抱いている人が多いのではないのでしょうか？ この2カ月間だけでも、すいぶん新しい環境や人と出会えていると思います。そうした新しい出会いを単なる出会いにするのか、自分自身の成長や将来のやりたいことにつないでいけるかは、みなさん次第です。「たくさんの経験をする、たくさんの人と出会う、大学の外に出る」=「たくさん学べる、たくさん成長する」という図式には必ずしもなりません。限りある機会のなかで多くのものをつかめるようにテーマをもってNPOスクール&インターンに臨んでください。

ちなみに、「将来NPO、NGOで働きたかったから」を選んだ人は、6人(3/1/2)でした。個人的には、プログラム終了後に「働きたい」という人が増えるようなとりくみにできればいいなと思っています。

さて、もうひとつの「あなたがコーディネーター(ズ)に期待することは何ですか？」では、けっこう答えがバラバラとしていました。

1 位 ; 様々な相談の相手として(24 人 /14/4/6)	2 位 ; 様々な情報の提供(15 人 /7/3/5)
3 位 ; 先輩としてのアドバイス(14 人 /5/7/2)	4 位 ; 自分が成長できるためのサポート(12 人 /4/3/5)
5 位 ; 問題が起こったときに共に悩むこと(11 人 /4/2/4)	

ちなみに、(期待することは)「特にない」という人も1名いました。さて誰でしょう？

コーディネーターズも自分の担当の人の感想文を中心にしっかり読みました。といってもこちらからサポートするというよりは積極的にみなさんたちがコーディネーターを活用して(コキ使って)くださいね。(赤澤 清孝)

事務局からの連絡

富山大学の学生も夏休みに京都で活動します

今日オブザーバーとして参加している富山大学の学生のみなさんも、夏休みに京都で活動します。具体的な関わり方についてはこれから詰めていきます。富山でも同じようなころざしで活動しているゼミのとの交流です。ぜひぜひ、交流することで何か「おもしろいこと」が始めるといいですね。

(財)大学コンソーシアム京都 インターンシップ・プログラム NPO コース

「NPO スクール」ニュースレター < 学級通信「ロマンとソロバン」 > 1999.6/30 第7号

編集長：山口 洋典 編集：赤澤 清孝・桜井 政成・竹花 由紀子・春山 文枝 発行：中村 正

< NPO スクール事務局 >

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学研究支援センター気付

TEL/FAX.075-465-1979

E-mail.ohbora@jca.ax.apc.org

URL.http://www.jca.ax.apc.org/ohbora/

< 財団法人 大学コンソーシアム京都事務局 (担当：武田) >

〒602-0047 京都市上京区新町通今出川上ル同志社大学新町校舎臨光館3階

TEL.075-251-4685

FAX.075-251-4687

URL.http://manzoku.topica.ne.jp/daicen